

持って、歩いて、ひとところ。

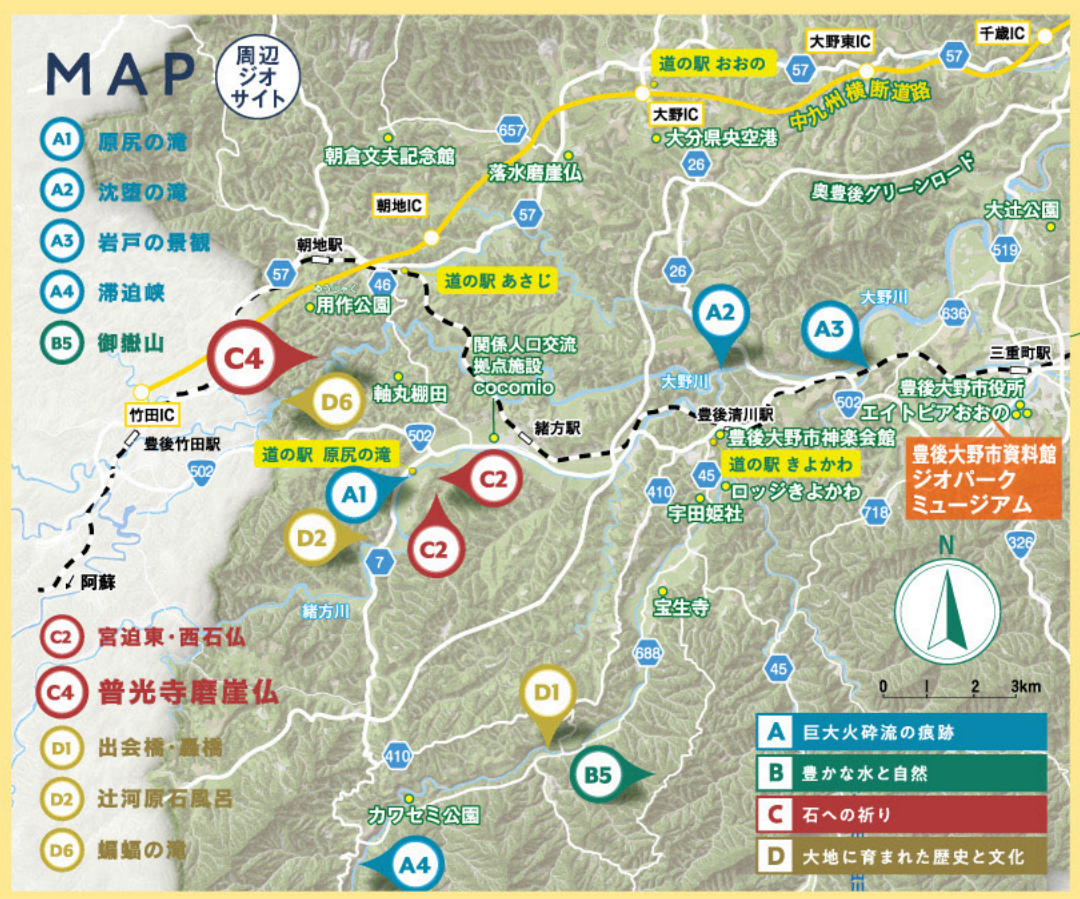


BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

普光寺磨崖仏

FUKUJI MAGAIBUTSU / ASAJI

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungo-ono Geopark



周辺情報
お土産買うなら！
道の駅 あさじ
大分県豊後大野市朝地町板井迫 1018-1
TEL 0974-64-1210 92 台
営業時間 9:00～17:30
新鮮野菜から工芸品などの幅広い特産品が並ぶ。レストランでは「朝地牛」を使ったメニューが味わえる。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地
TEL 0974-22-4089 FAX 0974-22-3361
<https://bungo-ohno.com>
豊後大野市商工観光課内

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809

大きくやさしい
お不動様。

FUKUJI MAGAIBUTSU / ASAJI



豊後大野ジオサイトファイル

普光寺磨崖仏

現在紫陽花寺として有名な普光寺は、古くは「筑紫尾寺」という名の古刹でした。境内の巨大な磨崖仏は、鎌倉時代前期に寺の創建に関わって彫られたものと考えられています。像高は頭から足までが約8m、全体で約11mあり、全国でも最大級の磨崖仏です。中央には不動明王、向かって右に矜羯羅童子、左に制多迦童子が彫られています。不動明王は憤怒相、つまり怒った顔をしているものですが、この磨崖仏は長年風雨にさらされた結果、丸く優しい表情となりました。大きな不動明王ですが、とても親しみものてる姿となっています。

筑紫尾寺は中世の間に禅宗寺院となり一時衰退しましたが、江戸時代に岡藩主中川公によって再興され、真言宗寺院「筑紫山普光寺」へと改められました。磨崖仏のとなりの懸造り舞台や護摩堂も中川公によって整備されたと伝えられています。

12万年前の岩とお不動様。

熊本県にある阿蘇火山は、これまでに4回の巨大噴火を起こしています。おおいと豊後大野ジオパークには、このうち4回目となる約9万年前の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩が広く分布し、たくさん磨崖仏が彫られています。これに対し、普光寺の磨崖仏は、それより古いおよそ12万年前の阿蘇火山3回目の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩に彫られています。この溶結凝灰岩は比較的硬く、ひび割れもほとんどはいつていないため、このような大きな磨崖仏を彫ることができたと考えられています。



約800年もの間風雨にさらされたためにとっても優しい表情になったと考えられます。

1 普光寺磨崖仏

普光寺磨崖仏は不動明王を中心とした三尊像で、中央の巨大な仏像が不動明王で、向かって右に矜羯羅童子、左に制多迦童子が配置されています。

不動明王は、弁髪を垂らし、右手に剣、左手に羂索をさげ、憤怒の相で表現されますが、全体的に丸みをおびた印象があり憤怒の相は伝わりません。しかし、口元には確かに上下に牙がでており、こうみえても怒っていることがわかります。

この地域ならではの、やわらかい岩に掘られたからこそのお顔なんだね。

こんなにやさしいお顔なのに、ほんとうは怒っているんだね。

ジオガイドさん

普光寺

普光寺と磨崖仏と紫陽花

普光寺は、別名「紫陽花寺」と呼ばれるほど、たくさんの紫陽花が植えられています。梅雨時期になるとたくさんの紫陽花の花に埋もれた磨崖仏を見ることができます。これらの植生は、お寺と地域の方により守られています。



足元注意

階段注意



カメラポイント
表紙の撮影はここから撮影したものです。

2 大きな仏龕と3 投込堂

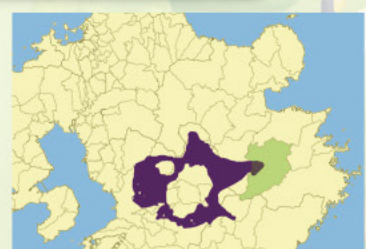
磨崖仏の左手の大きな仏龕には、大日如来を祀った祠と懸造り舞台があり、その奥には投込堂「護摩堂」があります。これらは、江戸時代になってから造られたと言われていて、普光寺が長く修験の地として活躍したことを表わしています。この岩窟内の岩肌にはたくさんの黒い点が見えますが、これはスコリアと呼ばれる軽石の仲間で、12万年前の3回目の火砕流が固まった溶結凝灰岩の特徴です。



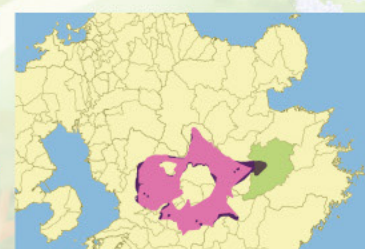
スコリア

阿蘇火山巨大噴火の痕跡、溶結凝灰岩の分布

阿蘇火山は過去に4回、大きな噴火をおこしたとされています。その時発生した火砕流の規模は、冷えて固まり残された溶結凝灰岩の分布によってわかります。



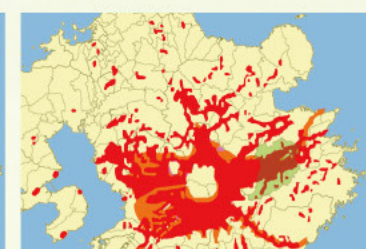
約27万年前の巨大噴火



約14万年前の巨大噴火



約12万年前の巨大噴火



約9万年前の巨大噴火